

中国

# 天津市

北京事務所所長補佐 前之園 毅 (奈良県派遣)

海外の  
地方自治体

北京から南東へ120kmの距離に位置する天津市。1000万人を超える人口を抱え、華北最大の貿易港を有する大都市が、2008年に開通した高速鉄道によって、北京からわずか30分で結ばれることになりました。これを機に、北京―天津という二大都市が一つの都市圏としてますます結びつきを強めていくことが予想されます。今回は、そんな天津市をご紹介します。



## 天津市の概要

天津市は北京から南東の方向へ約一二〇kmに位置し、人口約一〇〇〇万人、面積約一万二〇〇km<sup>2</sup>の中国を代表する大都市の一つです。また、天津市は、北京市、上海市、重慶市と並び四大直轄市の二つに指定されています。市の東側は渤海湾に面しており、中国北部最大の貿易港を有しているほか、海のない北京の玄関港の役割も果たしています。

天津という名称は一五世紀初頭、明の永楽帝の時代、「天子がお渡りになった渡し場」という意味から「天津衛」と名付けられたのが始まりです。それ以前は「海津鎮」と呼ばれていました。続く清代には「天津府」と呼ばれるようになり、良好な港を持つことと、沿岸部から海塩が採取できたことから急速に発展し、北方を代表する商業都市へ成長しました。しかし、清代も末期の一九世紀半ばには、アロー戦争後に締結された一八六〇年の北京条約により開港を余儀なくされ、また、天津の広大な区域が外国列強に租界として占有されることになりました。天津に租界を持つ国はヨーロッパを中心として日本を含む九カ国に及び、中国でも租界の多い都市となりました。その後、辛亥革命後に「天津特別市」が設置され、さらに一九四九年の新中国成立後には、直轄市の一つに指定されました。一九七六年に発生

した唐山大地震では天津も大きな被害を受けましたが、改革開放が開始されると、一九八四年に國務院によって沿海開放都市に指定されたのに続いて、沿岸部の塘沽に経済技術開発区が建設されました。以来、経済技術開発区への外国企業の進出が目覚ましく、現在では中国北方最大の国際港湾工業都市として大きく発展しています。

また、北京オリンピック開幕を目前にした二〇〇八年八月一日、北京・天津間を結ぶ高速鉄道「京津城际铁路」が開通しました。一二〇kmという距離を最高時速三五〇kmで走



↑北京・天津間を結ぶ高速鉄道「京津城际铁路」

るこの列車を使えば、北京―天津間がわずか三〇分。便数も飛躍的に増えるなど利便性も格段に向上しました。高速性と利便性を備えた「京津城际铁路」の开通により、一〇〇〇万人以上の人口を擁する二大都市が一つの経済圏として結ばれたことになり、今後両都市間の関係はますます強まっていくものと思われます。

## 天津の文化

天津と聞いて、日本人がまず思い浮かべるのは「天津甘栗」ではないでしょうか。実際には「天津甘栗」に使



↑清代の街並みを再現した「古文化街」にある「泥人張」の店

天津産ではなく、その昔、甘栗が天津の港から日本に輸出されていたことから、日本では「天津甘栗」と呼ばれるようになったそうです。中国では「糖炒栗子」と呼ばれ、秋から冬にかけて焼き栗を売る露店を見かけることができます。しかし、これは天津に限らずどこでも見かける光景であり、中国人の意識の中にも「天津甘栗」というイメージは特段存在しないようです。ただ、最近では天

津甘栗をうたった商品をちらほら見かけるようになりましたので、日本が生んだ「天津甘栗」という名称を商機に活かそうということかもしれません。

一方、中国人の間でよく知られている天津の名物と言えば、小麦粉をねじって油で揚げたお菓子の「麻花」、肉まんの「狗不理包子」、そして餅の中に餡をつめて油で揚げたお菓子の「耳朵眼炸」。これらは天津三大食品とも言われ、その中でも「麻花」は天津の典型的な土産物としてよく利用されています。また、「狗不理包子」は今や天津以外にも全国各地に支店を持っており、冷凍食品としても売られるなど広く知られるところとなっています。

伝統工芸品としては、「泥人張」と「楊柳青年画」が有名です。「泥人張」は泥人形のことですが、張明山という職人が生み出し、その子孫が受け継いできたことから、このように呼ばれています。「泥人張」は庶民の生活の様子や動物をいきいきと表しているのが特徴であり、その温かみのある姿は見る人に癒しを与えてくれるようです。「楊柳青年画」の「年画」とは春節（旧正月）の時に家に飾る吉祥を表した伝統的な絵画のことです。天津の楊柳青で生まれたことから「楊柳青年画」と呼ばれており、発祥は今から三〇〇年以上前、明の時代にさかのぼります。「年画」は下絵に基づいて刻版し、重ね刷りという行程を経て作成されますが、「楊柳青年画」は手作業による彩色が何回も行わ



↑今も天津市内に残る租界時代の西洋建築

れるところに特徴があり、そのため仕上がりは色鮮やかで美しく、中国四大年画の一つとして知られています。

また、天津といえば、市の中心部に残る西洋建築のことも触れないわけにはいきません。天津では前述のとおり、欧米や日本の租界が置かれた歴史から街の随所に当時建てられた西洋建築が独特な景観を作り出しており、今もなおさまざまな用途に使用されています。租界という過去の複雑な歴史の産物ではありますが、これらの建築が作り出した雰囲気のある景観は観光スポットとして多くの観光客を集めています。

## 天津市と日本の自治体との交流

当協会では、姉妹友好提携・交流に関する情報の収集や提供、また各海外事務所とのネットワークを通じて、自治体の姉妹友好交流の促進および提携の支援を行っています。天津市は日本の四つの地方自治体と友好提携を結んでおり、中国でも友好交流に積極的な都市の一つとなっています。そのうち、ここでは兵庫県神戸市と三重県四日市の交流事例をご紹介します。

天津市と兵庫県神戸市は当時の中国の周恩来首相の提案により、一九七三年に友好都市提携を結びました。この提携は中国にとっては外国の都市との初めての友好都市提携となりました。以来、市民レベルでの文化・スポーツ交流等をはじめ、その他さまざまな分野の交流が行われており、二〇〇八年には友好都市提携三五周年を迎えています。天津市の経済発展につれて経済面での交流も盛んになっており、一九八〇年に天津港と神戸港が友好港の提携を行ったほか、一九八五年には神戸市と天津市の友好親善および経済交流事業の拠点として、天津市に神戸・天津経済貿易連絡事務所が設立されました。また、この両市間の友好都市提携は日本の自治体にとっても中国の都市との初めての提携であり、その意味で天津市は日中交流に重要な位置を占めていると言えるでしょう。

天津市と三重県四日市市とはともに大規

模な石油化学工業等を有し、工業都市として港湾都市として発展してきた共通点から一九八〇年に友好都市提携を結びました。以来、広範囲な分野の交流を進めています。が、とりわけ環境面では四日市市が過去に大気汚染をはじめ甚大な被害をもたらした公害を克服してきた経験を活かして継続的に交流協力が続けられており、一九九三年からは天津市の環境行政能力の向上を目的として、天津市の環境行政担当者を四日市市へ受け入れる研修事業を実施しており、大きな成果を挙げています。これは過去に四日市市が大気汚染など大きな被害をもたらした公害を行政、企業、市民の努力により克服してきた経験を活かした交流協力事業であり、地域の特性を活かした創意と工夫に富んだ交流事例として、二〇〇六年には総務省と当協会が実施している「姉妹自治体交流表彰」の総務大臣賞を受賞しました。また、天津市はこういった環境への取組みが評価され、二〇〇六年に直轄市としては初めて国務院から「国家環境保護モデル都市」の称号を与えられています。なお、誌面の都合でここではご紹介できませんでしたが、天津市は前記のほかに千葉県千葉市、北海道函館市とも友好提携を結んでおり、両市とも多分野にわたり活発に交流を行っていることを書き添えておきます。

## おわりに

改革開放以降、地理的な優位性により順調な発展を遂げてきたわけですが、渤海湾に面した濱海新区の開発が国家総合発展戦略へと組み入れられるなど天津市の発展は国家的にも重要な位置付けにあり、今後さらに飛躍していくことが期待されています。天津市は渤海湾地域経済圏の中心都市として、華北メガロポリスの一翼を担う都市として、これからますます注目されていくものと思われれます。



↑真新しい高層住宅が建ち並ぶ濱海地区